

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：33302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370656

研究課題名(和文) From Active Classroom Learning to Extracurricular Informal Language Learning:
The Role of Virtual Cultural Context研究課題名(英文) From Active Classroom Learning to Extracurricular Informal Language Learning:
The Role of Virtual Cultural Context

研究代表者

藤井 清美 (Fujii, Kiyomi)

金沢工業大学・基礎教育部・准教授

研究者番号：60596633

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、オンラインコミュニケーションツールを用いて、教室内の活動を教室外のインフォーマルラーニングへと導くための教育方法の開発およびその有効性を検証した。英語学習者と日本語学習者間でのオンライン上の交流プロジェクトをブログやFacebookで試み、プロジェクトを通して得たデータを質的量的に分析した。調査の結果、オンライン交流ツールを用いることによって、学習者は従来の教室活動の枠を超えて自主的に学び、実践的に学習言語を使用していたことが確認された。

研究成果の概要(英文)：This research explored a language exchange activity between university EFL learners in Japan and JEL learners in the U.S., conducted via Web 2.0 technology. This project aimed to stimulate students to reach beyond active classroom learning to informal learning outside the classroom. To this end, the authors developed an approach to encourage informal language learning through the use of Web 2.0 applications that facilitate communication and social networking. The data comprises questionnaire responses collected before and after the project, as well as reflection log entries from the treatment groups. The data indicate learners who were in the treatment groups were able to raise their motivation, international postures, and intercultural competences. The results suggest that the utilizing online applications such as Facebook encourages students to create a rich and vibrant learning environment, and provides the opportunity for language exchange with native speakers.

研究分野：外国語教育

キーワード：informal learning Web 2.0 EFL JFL

1. 研究開始当初の背景

近年の情報通信技術の発達や外国語指導、教材作成においてそれまでの教室内外の活動に新たな可能性を生み出したと言える。特に、Facebook や LINE などのソーシャルメディアの発展により、学習者同士が繋がり交流をするだけに留まらず、学習言語を用いてコミュニケーションを図ることによって言語能力を向上させることも可能となった。

オンラインコミュニケーションツールを使用し、言語学習者が学習言語の母語話者と協働作業や異文化交流を実施した研究結果も多く報告されている。先行研究では、言語習得の伸び (Belz & Kinginger, 2002)、モチベーションの向上 (Jauregi et al., 2012)、異文化理解能力の向上 (Byram, 1997) などオンラインコミュニケーションツールを使用した活動の効果が報告されている。

学びには、学校の授業のように組織的かつ計画的に学習するようなフォーマルな学びに対し、オンライン上でわからない単語を調べながら学習言語の母語話者と交流するうちにその単語を覚えたというような学びもある。それをインフォーマルな学び、もしくは、インフォーマルラーニングと呼ぶ。インフォーマルラーニングによって身につけた能力は約 70% 定着するとの報告があり (Falk & Dierking, 2002) 学習効果が高いと言われている。

2. 研究の目的

本研究は、このようなオンラインコミュニケーションツールを用いて、教室内の活動を教室外のインフォーマルラーニングへと導くための教育方法の開発およびその有効性を検証することが目的である。

3. 研究の方法

研究目的を達成するために、以下を実施した。

(1) プロジェクトの実施

アメリカの大学で日本語を学ぶ学習者と、日本の大学で英語を学ぶ学習者との間でオンラインコミュニケーションツールを用いての交流プロジェクトを3年間にわたり試みた。2013年度は、アメリカの大学2校と日本の大学2校の間でブログを媒体として交流し、2014、2015年度はアメリカの大学1校と日本の大学1校がFacebook上で交流した。

(2) プロジェクト年度毎の調査

プロジェクト参加者を対象に以下の調査を実施した。

2013年度

アンケート調査：プロジェクト実施前、終了直後、終了3ヶ月後に実施

半構造インタビュー：プロジェクト終了時にフォーカスグループに実施

2014年度

アンケート調査：プロジェクト実施前、終了直後、終了3ヶ月後

リフレクションログ：プロジェクト終了時に参加学生に実施

2015年度

アンケート調査：プロジェクト実施前、終了直後、終了3ヶ月後

リフレクションログ：プロジェクト終了時に参加学生に実施

2016年度

ブログ (2013) と Facebook (2014, 2015) のデータの分析

4. 研究成果

(1) プロジェクト

プロジェクトの媒体や課題は、参加学生のプロジェクト後の要望や反応を受けて改変を加えていった。そのため2013年度はブログを用いたが、2014と2015年度はFacebookを使って実施した。

2013年度のブログプロジェクトでは、学生一人一人にインターネット上にブログページを作成するよう指示し、学生間で交流が図りやすいように各ブログのリンクを一つのウェブページにまとめた。学生には、自己紹介、自分の大学紹介、学校生活、自由投稿の課題が与えられた。

2014年度、2015年度はFacebookで交流を図った。学生がやりとりするテーマはブログプロジェクトと基本的に同じであったが、2015年度のプロジェクトでは課題を変え、自己紹介、自分の大学紹介、自由投稿とした。日本語、英語学習者共に自己紹介ビデオを作成し自分のFacebookページに投稿し、他の参加学生たちは、Facebook上でその投稿に投稿者の学習言語でコメントをした。自己紹介以外の課題はグループでビデオを作成する形式とした。

ブログ、Facebook共に、参加者のみが投稿を閲覧できるように設定し実施した。

(2) 調査結果

アンケート調査では、参加学生を対象にモチベーション、外国語でのコミュニケーションに対する姿勢、テクノロジー使用に対する自発性、異文化理解についてのアンケートを実施しプロジェクト実施前、終了直後、終了3ヶ月後に変化があるかをみた。

2013年度実施の調査結果では、いずれの分野においても統計的に有意差はみられなかった。また課題の違い (画像などを使う課題と使わない課題) の間でも有意差はみられなかった。

2014年度からは、プロジェクトをFacebookで実施し、Facebookの交流プロジェクトに参加する学生グループとしない学生 (異なる課題を与えた) グループとに分けた。2014、2015年度のアンケート調査の結果では、プロジェクトに参加した学生は、プロジェクト実施前と実施後とでは、外国語でのコミュニケーションに対する姿勢と異文化への理解度において向上しており、有意差が確認された。3ヶ月後の調査では、モチベーション、外国

語でのコミュニケーションに対しての姿勢、異文化理解の面で向上していることが確認された。プロジェクトに参加していない学生にはそれらの有意差がみられなかった。

2013年度のプロジェクト終了後に、各参加大学それぞれ4、5人の学生に半構造インタビューを実施した。インタビューでは、プロジェクトに対する全体的なコメント、外国語学習に対してのモチベーションや姿勢について質問した。その結果、日本語学習者からは「敬語の使い方の違いがわかった」「新しい単語を学んだ」などのコメントがあった。英語学習者からは「アメリカの大学や街の様子がわかった」などのコメントがあった。全体的に「楽しい活動だった」「自信がついた」などの意見があった。反面「メールを試みたが返事が来なかった」といったコミュニケーションが続かないという意見や「ブログではなくFacebookやスカイプなどを使用しもっと交流したい」など他の方法での実施を提案する意見が特に日本語学習者から多数あった(業績)。これらの提案などを受けて2014年度からはFacebookでのプロジェクトに変更した。

2014年度からは、参加学生全員からの意見や感想を聞くために、少人数インタビューではなく参加者全員にリフレクションログを記入してもらう方法に変更した。リフレクションログでは、プロジェクト全体に対するコメント、大学や学生生活、文化面などで気がついた相違点について自由記述式で回答してもらった。その結果、趣味などの共通の興味に対して類似点を見出したようである。一方、住居環境、食生活などに違いがあると回答した学生が多かった。更に言語使用に関して、日本語学習者からは「話し相手によって文末表現が違うことがわかった」「日本人の礼儀正しさを感じた」などと言った気づきがあった。プロジェクト全体を通して、「色々なことが学べてよかった」「今まで学習した言葉が通じるとわかってうれしかった」などの意見があり、教室外で有意義な言語使用ができる環境を作れたといえる。

一方でビデオ撮影の大変さや難しさに対するコメントが英語学習者から多く見られた。日本語学習者からは日本人学生のビデオの完成度の低さを指摘するコメントも見られ、テクノロジーリタラシーの差異が交流を左右することがわかった。また、工学系の大学で必修科目として英語を履修する日本人学生と、日本語を専攻したり選択科目として取るアメリカ人学生には、プロジェクトへの取り組み方に温度差が感じられた。課題の遂行が思うように進まないグループもあったため、グループの分け方もプロジェクトの参加度に大きな影響があることがわかった(業績)。

参加学生のブログとFacebookの自己紹介投稿を調査した結果では、初回のコメント投

稿においては、相手に興味や関心を示すメッセージ、つまり、疑問文、依頼文、招待文のいずれかが含まれているメッセージには、返信が多いことがわかった。反対に、疑問文、依頼文、招待文のいずれかが含まれていない投稿や短いメッセージには、返信が少なかった(業績)。

プロジェクトを通して、タスクデザインも重要であることがわかった。特に国をまたいでプロジェクトにおいては大学のスケジュールや授業数の違いを考慮して予定を組み、コミュニケーションを行いやすい媒体環境(Facebookなど)を整え、指導教員間の綿密な打ち合わせが重要であるといえる。また、参加者のコミュニケーションストラテジーとテクノロジーリタラシーを向上させるために、コメントの書き方やビデオの作成方法などの指導をすることが交流プロジェクトを成功させる秘訣の一つだと言える。

本研究では、オンラインコミュニケーションツールを用いて、教室内の活動を教室外のインフォーマルラーニングへと導くための教育方法の開発およびその有効性を検証した。その結果、オンラインコミュニケーションツールを用いて教室外でのプロジェクトを実施することにより参加学生の外国語でのコミュニケーションに対しての姿勢、異文化理解の向上が確認された。

今回の研究結果を踏まえ、教室内の活動を教室外のインフォーマルラーニングへと導けるよう、プロジェクト内容をさらに改善し、より円滑で深い内容の異文化コミュニケーションプロジェクトが進むよう指導に役立てたい。そして、プロジェクトを通し、異文化圏にいる学習者同士の協働作業や異文化交流を更に進めていければと考えている。

<引用文献>

Belz, J. A., & Kinginger, C. (2002). The cross-linguistic development of address form use in telecollaborative language learning: Two case studies. *Canadian Modern Language*, 59 (2), 189-214.

Byram, M. (1997). Teaching and assessing intercultural competence. Clevedon, England: Multilingual Matters.

Falk, J. H., & Dierking, L. D. (2002). *Lessons without limit: How free-choice learning is transforming education*. Walnut Creek, CA: AltaMira Press.

Jauregi, K., Graaff, R de, Bergh, H van den, & Kriz, M. (2012). Native/non-native speaker interactions through video-web communication: a clue for enhancing motivation?. *Computer Assisted Language Learning* 25 (1), 1-19.

Falk, J. H., & Dierking, L. D. (2002). *Lessons without limit: How free-choice learning is transforming education*. Walnut Creek, CA: AltaMira Press.

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

Kiyomi Fujii, Yuka Matsuhashi, Yasuo Uotate, How conversation failure occurs between JFL and EFL learners in telecollaboration, Proceedings of the International Conference on Japanese Language Education (ICJLE), 2016, http://bali-icjle2016.com/wp-content/uploads/gravity_forms/2-ec131d5d14e56b102d22ba31c4c20b9c/2016/09/kiyomi-fujii_discourse-intercultural.pdf?TB_iframe=true

藤井清美、松橋由佳、魚立康夫、テレコラボレーションによる異文化交流プロジェクト：コミュニケーションが滞る原因とは、Proceedings of the Canadian association for Japanese language education (CAJLE) 2016 annual conference, 2016, pp. 33-41

Kiyomi Fujii, James A. Elwood, Yasuo Uotate, Yuka Matsuhashi, Brent Wright, Barron Orr, Leveraging the power of SNS in language education. Proceedings of the 20th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics (PAAL), 2015, pp. 49-50

藤井清美、魚立康夫、ブレント・ライト、松橋由佳、日本とアメリカの大学間における Facebook 交流：教室外における有意な言語学習環境の提供を目指して、日本語教育方法研究会誌、2015、Vol. 22、No. 2、pp. 28-29

〔学会発表〕(計7件)

Kiyomi Fujii, Yuka Matsuhashi, Yasuo Uotate, How conversation failure occurs between JFL and EFL learners in telecollaboration, The International Conference on Japanese Language Education (ICJLE), Bali, Indonesia, 2016年9月10日

藤井清美、松橋由佳、魚立康夫、テレコラボレーションによる異文化交流プロジェクト：コミュニケーションが滞る原因とは、The Canadian association for Japanese language education (CAJLE) 2016 annual conference, Ontario, Canada, 2016年8月18日

Kiyomi Fujii, James A. Elwood, Yasuo Uotate, Yuka Matsuhashi, Brent Wright, Barron Orr, Leveraging the power of SNS in language education. The 20th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics (PAAL), Korea University, Seoul, Korea, 2015年12月5日

藤井清美、魚立康夫、ブレント・ライト、松橋由佳、日本とアメリカの大学間にお

ける Facebook 交流：教室外における有意な言語学習環境の提供を目指して、日本語教育方法研究会第45回研究会立命館大学、2015年9月19日

Kiyomi Fujii, James A. Elwood, Yasuo Uotate, Yuka Matsuhashi, Brent Wright, Barron Orr, Guiding students towards autonomous learning: from blogs to Facebook. The Japan Association for Language Teaching: Computer Assisted Language Learning (JALTCALL), 九州産業大学、2015年6月6日

Kiyomi Fujii, James A. Elwood, Yasuo Uotate, Yuka Matsuhashi, Brent Wright, Barron Orr, Communicating Across Borders: Using Google Maps and Blogs for Language Learning. The Japan Association for Language Teaching (JALT), つくば国際会議場、2014年11月24日

Kiyomi Fujii, James A. Elwood, Yasuo Uotate, Yuka Matsuhashi, Brent Wright, Barron Orr, Context is Key: Using Maps and Blogs for Language Learning. *The Japan Association for Language Teaching: Computer Assisted Language Learning (JALTCALL)*, 椋山女学園大学、2014年6月7日

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤井清美 (FUJII, Kiyomi)

金沢工業大学・基礎教育部・准教授

研究者番号：60596633

(2) 連携研究者

ジェームス・エルウッド

(ELWOOD, James)

明治大学・総合数理学部・准教授

研究者番号：00400614

ブレント・ライト (WRIGH, Brent)

金沢工業大学・基礎教育部・講師

研究者番号：80649426

(3) 研究協力者

バロン・オール (ORR, Barron)

アリゾナ大学・Office of Arid Lands Studies・教授

魚立康夫 (UOTATE, Yasuo)

フロリダ大学・Department of African

and Asian Languages and Literatures ・
マスター講師
松橋由佳 (MATSYHASHI, Yuka)
ネバダ大学 ・ Department of Foreign
Languages and Literatures ・ 講師 (2014 年
5 月まで) ・ テンプル大学日本校 ・ 日本語
プログラム ・ 講師 (2014 年 9 月から)